

京都大学工学部	正員	天野光三
日本開発研究所	正員	○吉田隆一
京都大学工学部	正員	柳原和彦

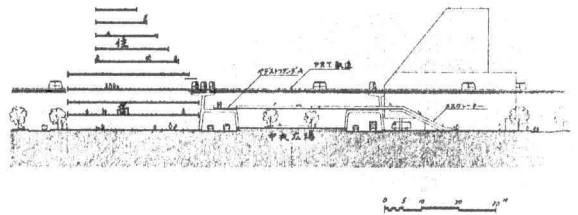
はじめに

都心卸売商業地区は古い都市構造と自動車中心の輸送形態との矛盾に悩んでおり、何らかの抜本的改革が必要である。以下には京都の室町地区に例をとって再開発の方法を検討する。

室町の交通上の特徴

- 1) 路幅が狭い。室町通りは5m程度である。
- 2) 小単位の荷物を頻繁に運んでいる。
- 3) 商品の運搬と商談とを併せて行なわれるため、長時間駐車が多い。
- 4) 運送業者が問屋を順次回って荷役をする際、車が太いためしばしば道路が閉塞される。
- 5) 駐車スペースがない。建替の際にも各戸が別々に行うため、小規模な駐車スペースはこね生み出せず、有効に荷役スペースとはならない。

図-1 標準的ブロック断面

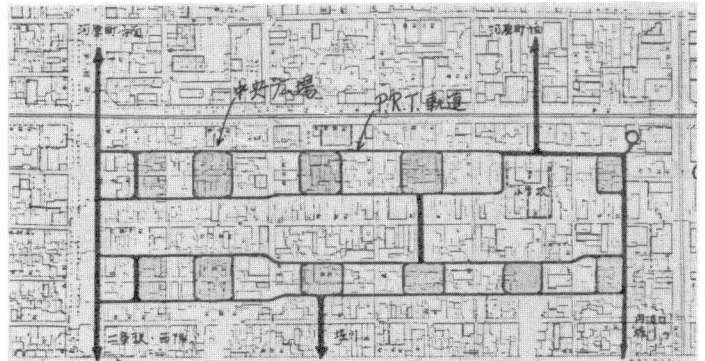


再開発計画

われわれの提案する室町は図-1のようなものである。ねらいは早晚行き詰る自動車社会からの脱出と、生活のある街づくりにある。

街の再開発と同時に交通手段をP.R.T.に加え、室町全域を網でおおうとともに、配送センター、加工地区との連絡をとる。計画の概要は次のとおりである。

図-2 P.R.T.の網



- 1) 街路で囲まれる約130m角の部分を1ブロックとして構成する。ブロック中に50m角の広場を設け、これを交通の核とする。上空にP.R.T.、その下に歩行者用のデッキがある。
- 2) P.R.T.はドック式停留場をもつ形式を採用し、車輛床面を4階床面と一致させる。4階へ集められた荷物は手押車についたP.R.T.に乗せることとできる。停留場は主として広場の周縁にそって設けられ、1ブロックで30～40バスである。そのうち3/5は各問屋の専用として割り当てる。伝票配達等の手段との組合わせによって、荷物の集配、問屋相互間、問屋加工業者間と無人でも輸送できる。
- 3) ペDESTリアンデッキと中央広場
P.R.T.軌道の下、2階と3階の間に、中央広場をめぐってペDESTリアンデッキを設ける。ブロック間の各棟を結ぶ回廊であり、またP.R.T.と街路の歩道をつなぐ中継場でもある。歩道との間はエスカレータやエ

レベーターで結ばれる。このデッキはブロック内のビル群が完成するまでの間は特に重要な意義をもっている。すなわち、P.R.T.がビルに直結されるまで、このデッキを介して地上と結ばれ、中央広場を交通の核たらしめる。

中央広場は残存する自動車の荷役、駐車等のための停車スペースである。この存在によって狭い町通りが安全な通行空間となる。

4) 商業空間と住空間

ブロック内の建物は4階までを商業空間として5階以上を住空間とする。4階以下に商業を営む者は当然その上部に住居を持つ。従来一戸の家の中で平面的に使い分けられた商業空間と住空間を立体的に組みこめるのである。高層化を行なえば現在空町地区に住む世帯数は十分吸収できる。

再開発の効果

この再開発計画では特に次の効果が期待できる。

- 1) 来訪自動車数を約以下に減らすことができる。
- 2) 歩行者空間と自動車空間とが分離される。
- 3) 自動車の通行空間と荷役、駐車空間が分離される。
- 4) 都心に良好な住環境が確保される。
- 5) 生活のある都心商業地区を維持することになり、夜間過疎地を生じない。

再開発の手かり

京都の街並は各戸の背後に庭や倉、はなれで占められる準空地と云うべき部分がある。この部分を整理し、公共化することによって中央広場ができ、P.R.T.の網が比較的容易に組み立てられる。ところによっては現存する家屋の上空を占有することにも必要である。広場となるべき部分に住居が集まっているブロックもあり、その場合には立体用地などの手法も必要となろうが、P.R.T.網の拡大がことになって、これと利用する街が急速に組立てられよう。

再開発の順序

再開発は次の段階を経て進展せられる。各段階は分離したものではなく、お互いに重複して進められる。

- i) 制限と指導、後退線、建築のの床面指定、共同ビル化、職住併設の指導
- ii) 中央広場の確保、庭、倉などで占められるブロック中心部を広場とする。ここに住居がある場合はブロックの一部を高層化して収容する。
- iii) P.R.T.網の建設 中央広場を核としてP.R.T.網を形成し、空町地区内着発の交通をこれに拘す。
- iv) 個人、金、公共資金を併用し、可能な部分から大規模ビル化を進める。
- v) P.R.T.網を発展させ、集、織加工地域や、配送センターへの連絡線を設ける。

現在急速に鉄筋高層化が進められようとしており、再開発計画は早急に進められる必要がある。

写真-1 標準的ブロックの外観

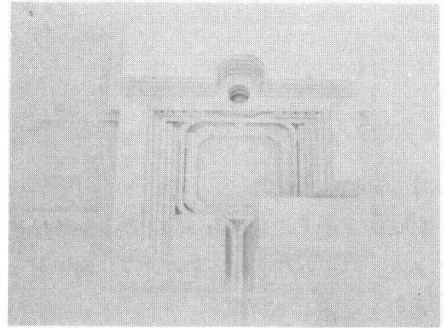


写真-2 標準的ブロックのP.R.T.軌道面

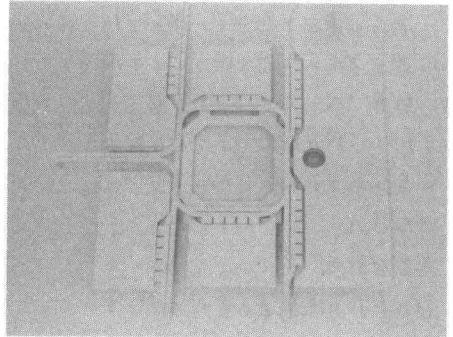


図-3 ブロック中央に残る準空地

